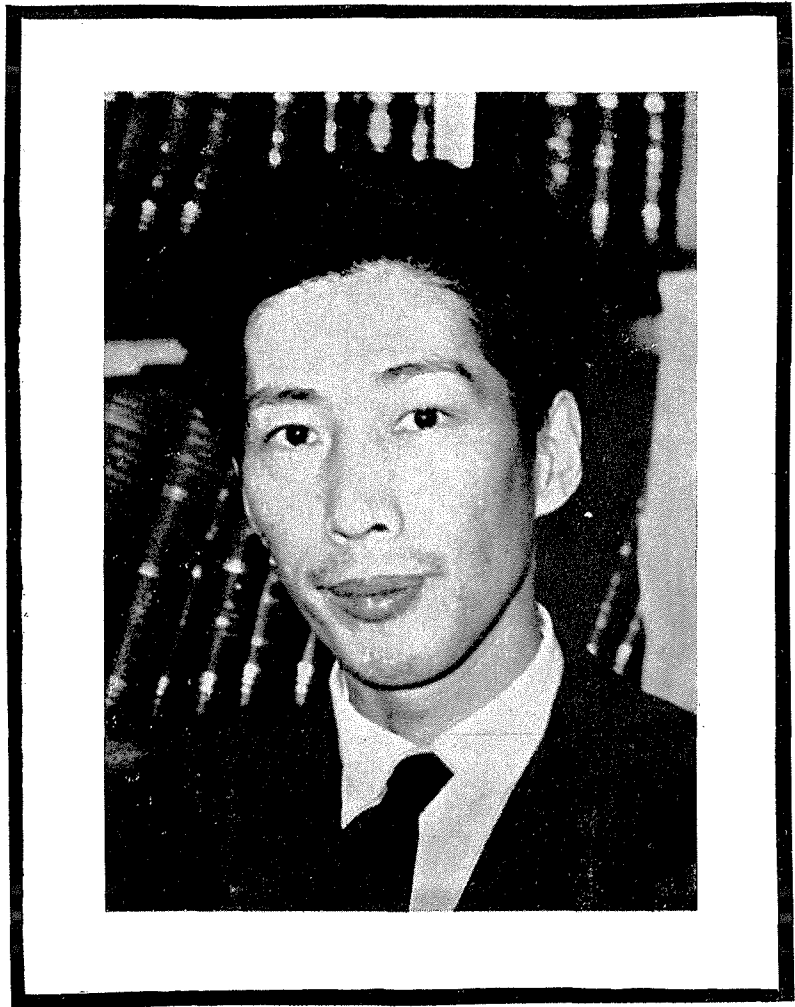




Title	今堀克己教授の死を悼む
Author(s)	堀, 健夫
Citation	低温科学, 9
Issue Date	1952-12-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/17560
Type	other
Note	今堀克己の肖像及び業績あり
File Information	009.pdf



[Instructions for use](#)



今堀克巳教授の死を悼む

昭和27年5月1日低温科学研究所員は突如驚愕と愁歎の淵に投げ込まれた。今堀教授の死の報が青天の霹靂の如く耳朶を襲つたからである。研究所に泊り込みで研究の仕事に渾身の力を注いでおられた教授が1週間ぶりで家庭に歸られ、そのまま昇天されようなどとは誰一人想像の出来ることではなかつた。まことに痛恨の限りである。

今堀教授はその業績に見られる通り各方面にわたる研究成果はまことに大きく、その著しい貢献は、変化する音響の分析法に於て、脳波の統計分析法に於て、また学問の一大分野となつた Cybernetics ないし Information Theory に於て、何れも世界的に評価重要視せられるに到つていた。同教授はこれらの方面に於て常に獨創的且つ指導的役割を演じていられたのである。

今堀教授の諸業績は、一見して、互に異つた研究分野に属するバラバラの研究の集積に過ぎないように見えるが、その底には何れにも共通した基本概念——すべての学問の基礎となつてゐる最も広い意味の統計学的方法論——が一貫して流れているのである。同教授が、低温科学研究所で昭和26年以来取り上げた大規模な綜合研究——霧の研究——に於て、亂流の理論を深く切り下げて追求せられたのも、更に、長期予報の理論を確立してこれを迅速に實施化するために電子管計算器を設計製作中であつたことも、すべて同様の観点に立つて進められたまことに優れた研究であつたのである。教授の死を悼むと共に、この種の研究が後繼者たちによつて益々有効に發展せしめられんことを切に祈るものである。

今堀教授はあまりにも多才多能であつた。あまりにも学者的良心があり過ぎた。やりたい仕事が続々と目の前にぶらさがつてきて、それに一時にいどみかかつたために、ただ一つしかない身体を知らず知らず酷使せられたのではないかと惜しまれてならない。敢て皮肉な解釋をすれば、大した才能もないのに勉強もせず、ただ口先だけ学者ぶつてゐる人達に、身をもつて無言の警告を發していられたのかもしれない。そうだとすれば、そして万一教授の死が不勉強の口實に利用されることでもあつたら、それは凡そ故人の意志とは遠くかけ離れたものになつてしまふであらう。

「低温科学」第9輯の發刊に当り、今堀教授を偲んで深く哀悼の意を表する。

昭和27年8月31日

堀 健 夫

故 今 堀 克 巳 教 授 の 業 績

- 1, 赤外線スペクトルに関する研究——水素結合に於ける O—H 結合基の振動スペクトルが異常性を呈することに注目し、その赤外線スペクトルと結合状態との関係を明らかにしたもの (昭和7~15) :

Infra-Red Absorption and Hydrogen Bridge; Near Infra-Red Spectra of Inorganic Oxyacides.
Proc. Phys-Math. Soc. Jap. Ser. III, Vol. 20, No. 4.

外1篇

- 2, 音響分析法に関する研究——変化する振動例えば話された言葉、音楽などを現象と同時にそのスペクトルを時間的に分析することのできる新しい分析法を考案し、その装置を試作して種々の応用に資した (昭和15年~20, これにより理学博士の学位と服部報公賞を與えられた) :

Analysis of Varying Sound; A New Photographic Method with Applications to Typical Examples. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. II, Vol. 3, No. 3.

Analysis of Varying Sound Part II. Practical Applications of the New Photographic Method.
J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. II, Vol. 3, No. 5.

Analysis of Varying Sound by a New Photographic Method. Nature, Vol. 144, 708 (1939)

変化する振動の分析法. 科学 9 卷, 11号, 1939.

子音の音響分析とその構造. 日本音響学会誌, 昭和18. 1, 昭和18. 10.

外数篇並びに著書 5.

- 3, 戦時中の研究——多重音源同時方向探知法, 超短波探査法の一般理論及びその応用, 超短波アンテナの高さが電波伝播に及ぼす影響について, その外未発表論文を除き, 既発表のものは指向性の純電氣的旋回法. 超短波研究所彙報, 昭和18. 8.
廻転楕円面鏡による電磁波集勢の計算. 超短波研究所彙報, 昭和18. 9.

- 4, 脳波の統計分析法に関する研究——脳波の科学的な研究法として, その自己相関係数を求めることにより, 記録せられた脳波から科学的に意味のあるものを抽出する方法を確立したもので, この方法は最近の Wiener 一派の Cybernetics に於て用いられている研究法と軌を一にするものである (昭和21~26) :

脳波における統計的方法について. 科学, 17 卷, 2 号.

On the Statistical Method in the Brain-Wave Study, Part I. Folia Psychiatrica et Neurologica Japonica Vol. 3, No. 2,

その外 3 篇

- 5, 長期予報に関する研究——時系列に関する確率的な研究法の一つとして, Brown 運動の概念を取り入れた予報の理論を完成し, これを気象現象の長期予法に応用した研究で, これを實施するために必要不可欠と思われる電子管計算器を設計一部實現を見つつあつた (昭和25~27) :

On the Long-Period Forecasting by Means of Harmonic Analysis. 気象集誌, Vol. 29, No. 11, 1951.

調和解析による長期予報，その1及びその2．予報研究ノート 2巻，5号，1951; 3巻，2号，1951

- 6, 亂流に関する研究——亂流の理論を時系列論の立場から発展せしめる研究で，従来の等方等質亂流の理論から更に一般の場合に擴張しようとしたもの（昭和25～27）：

亂流による拡散について．防霧林に関する研究，昭和25年，P.170.

林の周辺における亂流．防霧林に関する研究，昭和25年，P.117.

移流霧の消散機構と森林の防霧作用について．防霧林に関する研究，第2輯，昭和26年，P.121.

On the Diffusion of Turbulent Motion. 気象集誌 Oct.1951.

On the Vanishing Mechanism of Advection Fog and the Role of Turbulence. Studies on Fogs, 1953.

- 7, 以上の外 Cybernetics 関係の研究として全機学とその中心思想 I, II（基礎化学7月，10月，1951）があり，また可視音声及び音声タイプライターの研究を Information Theory の立場から着手し，簡単な可視音声装置はすでに出来上つていた。

以下，故今堀教授が低温科学研究所に赴任以来発表された業績中「低温科学」或は「防霧林に関する研究」以外のものに公表された論文を輯録して故人の靈に捧げる。